

エネルギー需要側対策を中心とした GX の展望

下田 吉之

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 研究所長

■要旨／Abstract

エネルギーシステムの需要側は、今後 1)エネルギー需要の大幅な削減によってエネルギーシステムのカーボンニュートラル化に貢献すること 2)変動性再生可能エネルギーの普及に伴う電力需給の不安定性に対して調整力を提供すること の 2 点において今後の GX で重要な役割を果たす。これらを達成する上で重要な鍵の一つがエネルギー消費によってもたらされるサービスの明確化であり、もう一つがデジタル化である。デジタル化は機器の稼働を最適にマネジメントするだけでなく、人間の行動に働きかけることや、暮らしや仕事の形を変えることでエネルギー需要の中身を大きく変質させる可能性を持つ。また、民生部門やモビリティのエネルギー需要の変革を考える上で、従来のエネルギー供給側と大きく異なるのは需要技術一つ一つの小ささと、意思決定主体の小ささである。従って都市など適切な単位でパッケージ化し、まとまりを持った需要として管理する工夫が必要である。